

明大コレクション 47

きたとうほく

北東北の

じょうもんいせきぐん

縄文遺跡群

かめがおかいせき

おおゆかんじょうれっせき

亀ヶ岡遺跡・大湯環状列石

てんじかいせつ

展示解説シート

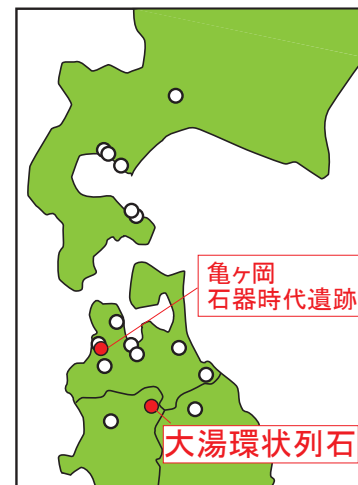
明治大学博物館 常設展示室

MEIJI UNIVERSITY MUSEUM
Regular Exhibition Room

秋田県大湯遺跡環状列石遺構

Mm
MEIJI UNIVERSITY
MUSEUM

じょうもんいせき
日本の縄文遺跡が
世界遺産になったよ！

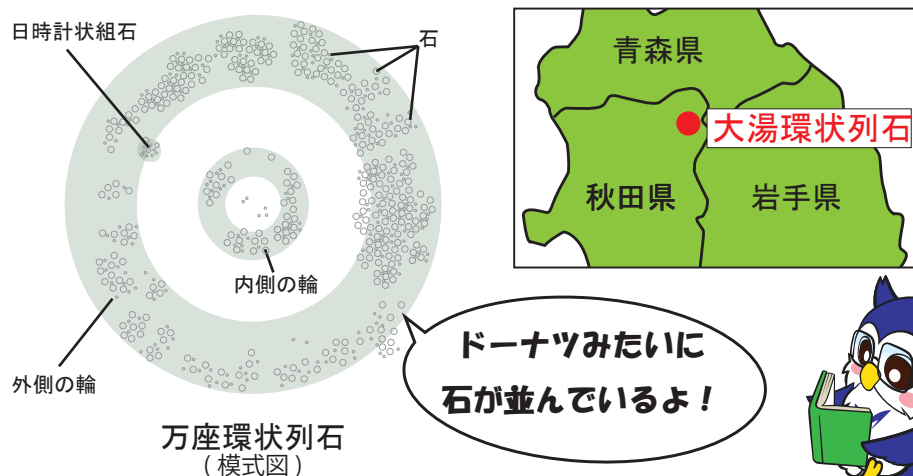


2021年7月27日に開かれたユネスコ
の世界遺産委員会で、日本の“北海道・
北東北の縄文遺跡群”が世界文化遺
産に登録されました。北海道と北東北
(青森、秋田、岩手県)にある17遺
跡がその対象です。明治大学博物館
では、このうち青森県亀ヶ岡石器時代
遺跡と秋田県大湯環状列石から出土し
た資料を収蔵しています。

おおゆ かんじょう れっせき

大湯環状列石

秋田県鹿角市にある、今から約 4000 ~ 3500 年
前の縄文時代後期の遺跡です。中心に野中堂環
状列石と万座環状列石があります。規模が大きく
全国的にもめずらしい遺跡です。様々な大きさの
川原石を平らに並べたものを「配石遺構」といい、
それが二重の輪っかになるように並べられているも
のを「環状列石」といいます。環状列石は集団の
墓地であり、ひとつひとつの石がお墓になっていま
す。また、遺跡の近くから建物のあとやマツリの
道具などが見つかったため、お葬式やお祈り
をするための施設であったと考えられます。



ひどけいじょう くみいし

日時計状組石



日時計状組石

明治大学博物館蔵

石の配置の仕方は様々ありますが、遺跡で特に有名なのが日時計状組石です。これは環状列石の外側の輪と内側の輪の間に立っています。環状列石の中心と日時計状組石を一直線に結ぶと、夏至の日の入りの方向を指します。このように縄文時代の人々は、季節による日の出・日の入りの方向を考えて石を配置していたことが分かります。

※夏至：日の出から日の入りまでの時間がもっとも長い日



かたくち とき

片口土器

鳥さんの
くちばしみたい!



他の土器と
少しちがうね



大湯遺跡のもう一つのとくちょうは、遺跡からたくさん出土した片口土器です。片口土器とは器をかたむけたときに液体を注ぎやすくするために、ふちに注ぎ口が付けられたもの。日常的に使われていたようですが、使われていたのは関東地方南部の縄文時代前期、東北地方の縄文時代後期・晩期と、かなり限られていました。

土偶の足

おまけ

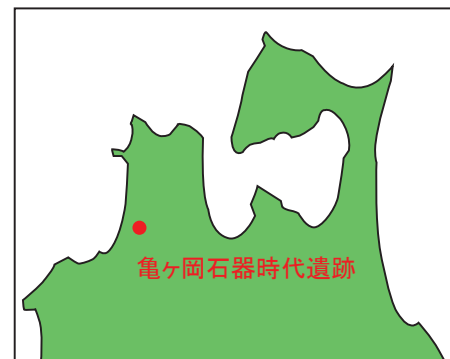


イキオシ!
かわいい!
みてね!

かめがおか せっき じだい いせき

亀ヶ岡石器時代遺跡

青森県つがる市にある、今から約 3000 ~ 2400 年前の縄文時代晩期の遺跡です。「瓶」が多く出土することから「亀(瓶)ヶ岡」と呼ばれるようになりました。土器、土偶、漆製品など様々な資料が出土しています。特に土器は、東北地方から関東地方まで広く影響を与えました。「亀ヶ岡式土器」と呼ばれ、東日本を代表する土器として有名です。



亀ヶ岡石器時代遺跡



雲の形をしたもよう
(雲形文) や磨消縄文
が見られるよ!



うるし ぬり

漆塗の土器

縄文時代の土器には、赤い色や黒い色をしているものがあります。この赤や黒の正体は顔料^{がんにょう}という絵の具のもとを粉にしたもので、赤はベンガラ^{すいぎんしゅ}や水銀朱、黒は木炭^{すす}や煤が利用されました。これを土器に定着させる接着剤として使われたのが漆^{がんにょう}です。顔料を漆に混ぜてぬったり、土器に直接顔料^{がんにょう}をぬって上から漆で固めたりしていました。また、漆塗^{うるしぬり}の土器は、マツリの時に使われる特別なものでした。



赤と黒の漆を
重ねぬりしているのが
分かるかな～？

商品部門に現代の漆塗の器があるよ、探してみよう！

ど ぐう 土偶

粘土を焼いて作った人形を土偶といいます。これを使って子どもの誕生や成長、自然の豊かな恵みをお祈りしていたと考えられています。また、土偶を身代わりとし、体の悪い部分や病気の部分を壊すことで回復をお祈りする、といったこともしていたようです。時代や地域ごとに少しずつ形が違うので、見比べてみるのもいいですね。



遮光器土偶
(青森県亀ヶ岡遺跡)



山形土偶
(千葉県江原台遺跡)

時代や
地域が
ちがうと
こんなに
ちがう！

縄文時代の
展示ケースで
まってるよ！

土偶の体のもようは、同じ遺跡で作られていた土器のもようが使われているといわれています。実際に展示を見て確かめてみましょう。



しや こう き

遮光器土偶

赤い顔料が
ぬられているよ！



赤はま魔よけの意味があると
考えられています。

メガネそっくり！



なんだかボツボツしてる



これは縄で付けたもよう。も
よようを磨すり消けしして目立たせ
る、磨消縄文すりけしじょうもんという技が使
われています。



目の形が、きよくほく極北の地域に住む人たちが
つけていた雪メガネ（遮光器）に似て
いるのでその名がつけました。



縄文時代の人たちは自然とともに
暮らしながら、漆塗の土器や土偶、
環状列石などの豊かな文化を営ん
でいたことが分かるね。

縄文時代の展示エリアには、
土器や土偶以外にも
いろいろな資料が
展示してあるよ。
ぜひ見に来てね！



明治大学博物館
2021年08月17日発行